

医療法人橘会 東住吉森本病院 地域医療連携センターだより

発行者：寺柿 政和/事務局：地域医療連携センター・広報委員会

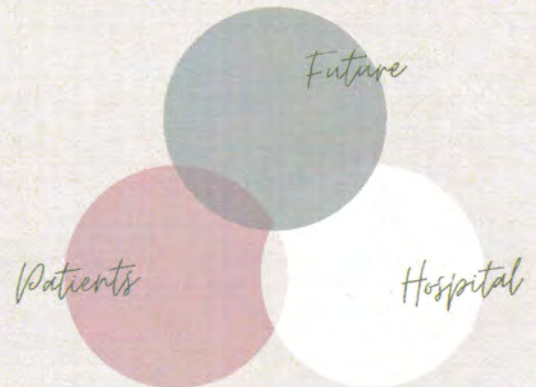
2026年4月、新入職員を迎えて気持ちも一新、新年度のスタートです。診療部で特筆すべきは、ここ数年厳しい運営を強いられていた消化器外科に新たに村橋、杉山、佐竹先生の計3名が大学から着任したことです。外科医は全国的にも少なく、手術ができない状況があちこちで報じられています。そんな中で大阪公立大学から多くの先生方を迎え5名体制となり、新たなフォーメーションを組むことができるようになりました。また内科には豊田先生を迎えました。糖尿病・内分泌の専門医であり、院内での活躍が期待されます。その他の診療科でも定期の人事異動で多くの新しい医師が入職されてきました。

さて現在地域医療構想のもと、医療体制の再編が着々と進んでいます。それぞれの病院が生き残りをかけて、各々の特徴を前面に出しながら、地域でアライアンスを組んでいく—そのような潮流が生まれつつあります。当院は救急や紹介により患者さんを受け入れ、診断し、自院で治療可能な場合は入院で、自院で手に余る場合にはしかるべき施設に転送する、「地域での砦」のような役割を受け持つ—そんなイメージでしょうか。今年度もいざという時に頼りになる病院を目指していきます。

TOP MESSAGE



院長 寺柿 政和

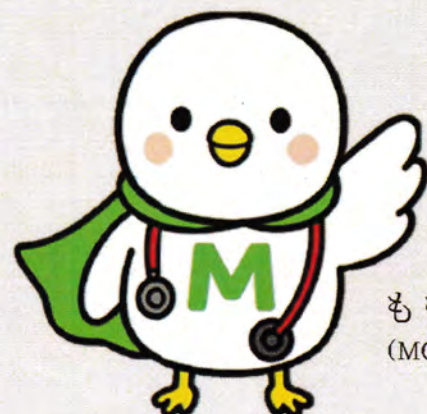


■東住吉森本病院の公式キャラクターが決定しました！

東住吉森本病院の公式キャラクター「ももりい (MOMORii)」が誕生しました。

ももりいは、患者さまやご家族さま、そして地域の医療機関の皆さまをそっと見守り、「安心・笑顔・つながり」を届ける存在です。橘会のマークをイメージしたデザインに、首には聴診器型双眼鏡を身につけ、皆さまの声に耳を傾ける気持ちを表現しています。

このキャラクターは、「病院をより身近に、親しみやすい存在にしたい」という思いから、職員による公募と投票を経て誕生しました。多くの職員の共感と支持を集め、公式キャラクターとして選ばれています。これから院内掲示や広報誌、SNSなどさまざまな場面で登場し、病院と地域をつなぐ役割を担っていきます。どうぞ「ももりい」をよろしくお願いたします。



ももりい (MOMORii)

広報委員会一同

Message from the
New Department Head

就任あいさつ



総合内科
診療顧問 吉岡 克宣

Message

2026年1月1日より、総合内科診療顧問として勤務しております、吉岡克宣と申します。

1987年に大学を卒業後、当初は糖尿病・内分泌疾患を中心とした診療に従事してまいりました。2000年頃より、当時勤務していた病院に新設された総合内科へ異動し、受診すべき診療科の特定が難しい患者さまを中心に診療を行ってまいりました。これまで幅広い疾患に対応できるよう研鑽を積んでまいりましたが、特に臓器の特定が難しい疾患として、膠原病や内分泌疾患に関わる機会が多くなっております。今後は、当院の各診療科、特に救急部門や総合診療科、ならびに地域医療機関の皆さまとも密接に連携を図りながら、質の高い医療の提供に努めてまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

2026年1月より、大阪医科薬科大学麻酔科の医局人事により、麻酔科部長として入職いたしました、辻井英治と申します。



麻酔科
部長 辻井 英治

1990年に大阪医科大学（現・大阪医科薬科大学）を卒業後、胸部外科に入局し、心臓外科医として研鑽を積んでまいりました。その後、2007年5月に三菱京都病院にて麻酔科へ転科し、以降は関西の関連病院3施設において、臨床麻酔医として副部長・部長職を経験してまいりました。

本年4月より、前任の波多野先生は非常勤医となられ、常勤医は飯田先生と私の2名体制となります。また、緊急手術については、関連麻酔科医の協力および外部委託医師の登用により、24時間体制で対応しております。今後も、安全で円滑な手術室運営に貢献できるよう努めてまいります。何かございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

2026年2月より循環器内科に着任いたしました、金森徹三と申します。



循環器内科
副部長 金森 徹三

1998年に兵庫医科大学を卒業後、同大学循環器内科に入局し、関連病院にて診療に従事してまいりました。2010年からは東住吉森本病院にて4年間勤務し、その後は複数の急性期病院で研鑽を積み、このたび再び当院に戻ってまいりました。

専門は不整脈領域で、不整脈専門医の資格を有しております。また、心臓リハビリテーション指導士としての経験も活かし、カテーテル治療をはじめとした循環器診療全般に対応しております。栄養管理にも取り組んでおります。患者さまやご家族の価値観やご希望に丁寧に耳を傾け、最善の治療とケアを提供できるよう努めてまいります。地域医療に少しでも貢献できるよう尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

Palliative Care

緩和ケア
№.39

■緩和ケア病棟「長居公園に花見に行きました」

がんに伴う身体と気持ちの辛さを和らげるための非薬物療法の一環として、緩和ケア病棟では季節のイベントを大切にしています。

4月3日、今年も長居公園でお花見を行いました。

外の空気を吸いながら桜を観て、病棟で普段みる表情とはまた違った患者さまの様子を垣間見ることができました。同行した医師、看護師も満面の笑みの患者さんをみることができ、嬉しい気持ちになりました。緩和ケア病棟では、今後も季節のイベントを大切にしながら患者さんのケアを実践していきたいと思っています。

緩和ケア病棟 副主任 北村 希



■新入職とインシデントの関連

新入職者は業務に不慣れな時期ほど周囲の支援や確認を受けやすく、本人も慎重に行動する傾向があります。一方で、業務に慣れてきた頃になると、作業手順や職場環境に一定の自信が生まれ、「これくらい大丈夫だろう」という思い込みが生じやすくなってしまいます。その結果、ダブルチェックの省略や確認不足、報告・相談の遅れといったヒューマンエラーが発生します。また、3、4カ月で業務量が増え、複数の作業を同時に任されるようになり、時間的余裕のなさや焦りから注意力が低下することもインシデント発生の一因となります。さらに、職場の雰囲気慣れ、疑問点があっても「今さら聞きづらい」と感じ、自己判断で対応してしまうケースも少なくありません。

これらの背景から、業務に慣れた頃は新入職者にとってインシデントのリスクが高まる時期です。インシデントレポートは個人の責任追及ではなく、再発防止と職場全体の安全文化の醸成を目的とした重要なツールです。新入職者が安心して報告できる環境を整え、定期的な振り返りやフォロー体制を継続することが、医療安全の風土作りに大切です。

For safe
medical care

医療安全
№.19



医療安全管理室
室長 石津 真由美

診療科別
入職・退職者一覧

消化器内科	入職	トシダ 豊田 新一郎	キンドウ 金道 勇気	ミサキ 三崎 絢子	サハラ 佐原 匡紀
	退職	小西 勝也	山川 麻郁子	溝端 勇基	
循環器内科	入職	カワ 河 吉則	マツオ 松尾 秀平		
	退職	杉山 貴俊			
外科	入職	ムラハシ 村橋 邦康	スギヤマ 杉山 朋大	サタケ 佐竹 應登	
	退職	清田 誠志			
形成外科	入職	オカモト 岡本 貴恵			
	退職	沖塩 協香			
腎椎外科	入職	ヤスダ 安田 宏之			
	退職	松本 富哉			
整形外科	入職	ニナト 湊 俊毅 (4-9月)	ササキ 佐々木 頼応	タナカ 田中 宏樹	ヒグチ 樋口 和幸
	退職	川田 啓二郎	甲斐 健太郎	中野 遥星	
救急・総合診療センター	入職	フジナガ 藤永 俊也			

■ 地域と連携した感染対策の取り組み

近年、抗菌薬が効かない薬剤耐性菌が「サイレントパンデミック」として注目されています。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、基質拡張型ベータラクタマーゼ（ESBL）産生菌、多剤耐性緑膿菌（MDRP）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）など、その問題は深刻であり、医療施設では大規模な集団感染を防ぐための感染対策が重要視されています。2012年の診療報酬改定で感染防止対策加算（現：感染対策向上加算）が導入されて以降、病院・外来・介護施設が連携し、地域全体で薬剤耐性菌の減少に向けた取り組みが進められてきました。施設間の連携は、自施設の感染対策の見直しにつながるだけでなく、他施設の取り組みから新たな改善のヒントを得る機会にもなります。大阪市南部は大阪市感染対策支援ネットワークの活動が盛んで、当院も幹事病院として地域の窓口として感染対策相談を受け付けております。今後も近隣の医療機関や介護施設と協力し、地域全体の感染対策の充実に向けて取り組みを進めていきたいと考えています。

Infection Control

感染制御
No.40

感染防止対策室 室長 荻田 千歌

当院の連携状況 感染対策向上加算取得施設



Community Care Workshop Report

地域医療介護連携
推進研修報告



■地域医療介護連携推進研修報告

当院は地域医療支援病院として、地域の医療従事者の資質向上を目的に、「地域医療介護連携推進研修」を毎月第3木曜日に開催しています。2026年3月19日には、第72回となる本研修を実施しました。

今回のテーマは「診療報酬改定2026～改定で求められる医療×介護連携の基本～」とし、最新の改定内容と今後求められる連携のあり方について当院の医事課長田代より、膨大な改定情報の中でポイントを絞った内容を解説しました。当日は、複数の医療機関より計51名の方にご参加いただき、関心の高さがうかがえました。2026年度の診療報酬改定は、32年ぶりの大幅なプラス改定とされており、現時点では不明瞭な点も残るものの、参加者の皆様にとって有益な情報提供の機会になったのではないのでしょうか。今後も当院では、地域における医療介護連携のさらなる推進に寄与できるよう、継続して研修を実施してまいります。

管理部 部長 大西 雄一郎

Disaster Prevention Training Report 防災訓練



■2025年度 東住吉区役所との合同防災訓練報告

2026年3月22日、東住吉区役所および東住吉森本病院において、災害時医療救護所設置訓練が実施されました。本訓練は、休日時間外に大規模地震が発生した場合を想定し、区役所、三師会、病院が連携して当院1階駐車場

における医療救護所の設置および運用手順、情報伝達体制の確認を目的として行われました。訓練では、発災後の参集から救護所の設営、振り返りまでの一連の流れを実践し、必要物品の配置や動線、役割分担について具体的に検証しました。また、大阪市防災情報システムを用いた情報共有の手順についても確認しました。その結果、関係機関の連携の重要性を再認識するとともに、役割分担の明確化や物品管理、動線の見直し、システム操作の習熟などの課題が明らかとなりました。今後はこれらの課題を整理し、より実効性の高い災害対応体制の整備につなげてまいります。

災害対策委員会
救急・総合診療科 部長 加賀 慎一郎

■ 臨床研修病院の理念・基本方針

【研修理念】

病める人の尊厳を守り、医学・医療の果たすべき社会的使命を自覚し、適切な全人的医療をチームのメンバーと協力しながら提供できる医師を目指します。

【基本方針】

次の1～6のような資質を備えた医療人を養成する。

1. 人間性豊かな医療人
2. 医療全般にわたる広い視野と高い見識を持つ医療人
3. 患者の立場に立った医療を実践する医療人
4. チーム医療のできる医療人
5. 生涯学習をする医療人
6. 地域医療支援病院としての責務を自覚し、地域医療に貢献する医療人



Clinical Training
Hospital

臨床研修病院

■ 病院の理念・基本方針・患者さんの権利

【病院理念】

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. よりよい、サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

【基本方針】

1. 「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2. 地域簡潔型の医療サービスを提供します。
3. 地域の予防医療の啓蒙に貢献します。
4. 自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

Philosophy

病院理念

患者さんの権利

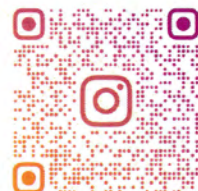
1. 個人の尊厳の保持
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療を自ら決定する権利
5. 医療について知る権利
6. プライバシーの保護
7. セカンドオピニオンを受ける権利

当院では、公式Instagramアカウントを開設しています。

ぜひフォローして、最新情報をチェックしてください！

アカウント名：東住吉森本病院公式アカウント

ユーザー名：@morimoto.hospital.official



MORIMOTO.HOSPITAL.OFFICIAL

医療法人橘会 東住吉森本病院 地域医療連携センター

地域医療機関・施設さま専用 お問い合わせ先

メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

受付時間 平日 9:00～20:00

土曜日 9:00～17:00

Community
Liaison Center

地域医療連携センター
センター長 大場 一輝